



街頭募金活動の様子（名古屋）

## ボランティアリーダーとともに活動を改善

私は、フィリピンでアイキャンと出会い、地域住民に近い存在であるアイキャンの活動を学びたいと思い、インターンに応募しました。採用後、主に街頭募金活動を担当することになりました。

月に一度行っている街頭募金には、10名から、多い時で50名のボランティアが集まります。しかし、継続的な参加者は限られていたため、リピーターを増やすことができるよう、ボランティアが活動しやすい環境を作ることを目指しました。

改善すべき点として、まず、役割分担や休憩がうまく回っていないことに気が付きました。例えば、なかなか受け取ってもらえないチラシを配る役や、看板を持って大きな声呼びかける役を、途中で交替することなく休憩なしで行っていて、参加者の疲れが見られました。ボランティアリーダーに聞いてみたところ、夢中になって活動をするあまり、休憩や役割の交替を促しても断られてしまうと悩んでいるようでした。そこで、休憩や役割のローテーションを決め、任意ではなく必ず行うようにしたところ、休憩によってほっとした表情を見ることができたり、「後半も頑張りましょう！」という声が自然と上がったりするなど、以前より一体感が生まれ、メリハリのある活動ができるようになりました。

また、街頭での呼びかけやチラシ配りのコツ、注意点についての説明が不十分で、初めての参加者が見よう見まねで活動を始めていることにも気が付きました。この点もボランティアリーダーと話し合い、チラシ配りのレクチャーや声を揃える練習等、初心者に向けた説明をリーダーから行うことにしたところ、「活動前に街頭でのイメージができてよかった」「自分が考えて呼びかけた言葉によって、募金が集まり、役に立てるのが嬉しかった」といった声が聞かれるようになりました。

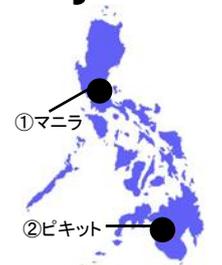
このように、ボランティアリーダーと相談しながら改善を重ねた結果、何度も来てくれる方が増え、私が担当になった11月以降に初めて参加した方だけでもリピーターは23名になりました。

インターン業務を通じて、フィリピンやイエメンでの活動の重要な資金の一部になる街頭募金を、沢山のボランティアの方が守ってくださっていると学びました。まもなくインターンを修了しますが、アイキャンで出会ったボランティアの素晴らしい行動力や優しさを忘れずに、頑張っていきたいと思えます。



ICAN 日本事務局  
インターン  
柳井麻里（やないまり）  
～プロフィール～  
創価大学文学部卒業後、民間企業での営業職を経て、2016年10月よりインターン開始。

## Project Site



番号は裏面に対応

認定 NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

# Close up

## I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

### ①路上の子どもたち

5月27日/マニラ(フィリピン)

#### 学校の大切さを伝える、元路上の若者たち



路上教育のファシリテート研修を受けてきた、協同組合カリエの4名が、路上の子ども22名に対し、路上教育を実施しました。路上の子どもとカリエメンバーがグループに分かれ、「なぜ学校に行くことが大切なのか」「学校に行くとどんな効果があるのか」を話し合った後発表し、意見交換しました。終了後、マリアフェさん(11歳)は、「また学校に通いたい」と話しました。

### ②紛争の影響を受けた子どもたち

5月10-12日/ピキット(フィリピン)

#### 教育省の平和教育方針を各学校へ



「平和教育促進会議」に39名の教育省職員及び学校長が参加し、教育省の平和教育の方針を各学校に浸透させるため、計14の州事務所の行動計画が策定されました。教育省のタルク氏(38歳)は、「平和教育は、各学校で実施することで意味を持つ。平和教育を通して個人レベルで変化が起き、それが地域や社会への変化に繋がることを意識して、各学校で平和教育を行ってほしい。」と語りました。

## II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

### 国際理解教育事業

5月24日/愛知

#### NGO職員から、中学生へのメッセージを伝える

幸田町立南部中学校の2年生79名に対し、フィリピンやイエメンの紛争やアイキャンの活動について、またNGO職員として働くことについての講演をしました。最後に、「一人でできることは限られるが、力を合わせれば大きなことができる」と伝えたところ、昨年度日本事務局の街頭募金に参加した生徒からは、「これからも募金に参加して、自分にできることを続けていきたい」との声がありました。



### MY アイキャン事業

5月13日/愛知

#### 雨の日の事務所ボランティア

予定していた街頭募金が、雨天のため急きょ27日に延期となりましたが、この日ボランティアへの参加を申し込んでいた方のうち9名が、「何かできることがあれば」と事務所に来てくださいました。次の街頭募金で配るチラシの裁断や折り込み、ご寄付で届いた物品のカウント作業など、2~3時間、事務所内で作業をしてくださいました。



## 今月の Announcement



### 夏のスタディツアー、参加者大募集!

【日程】2017年8月23日~27日(4泊5日)

フィリピンの路上の子どもたちやごみ処分場周辺地域で暮らす人々に会いに行きませんか?今年の夏は、1回のみの開催です。HPをご覧ください。まずは資料をご請求ください。<http://www.ican.or.jp>

## 今月の Media

5月1日 中日新聞 一時保護施設の運営と寄付金

5月31日 THE PAGE, Yahoo!News 路上の子どもの一時的保護施設

5月8日 Logistics Today 日本郵船の社会貢献活動

5月31日 まにら新聞 MEX チャリティコンサート収益を寄付

## 今月の ICAN なる

◎東藤さん、帰国後も積極的に活動してくださり、ありがとうございます!

### マンスリーパートナー 東藤明里さん

#### 「彼らが心から笑える日が来てほしい」

インタビュー:6月15日

私が通っていた小学校は、近所のお寺の和尚さんが行っていた、開発途上国の子どもに絵本を届けるボランティアに毎年参加しており、それがきっかけで、いつかその現状を実際に見たいと思っていました。そこで昨年2月、友人を通じて知ったアイキャンのスタディツアーに私も参加しました。

ツアーで見たフィリピンの状況は、想像以上に過酷で、自分の生活とのあまりの差に愕然としました。衛生環境の悪さや、栄養が足りず年齢より体が小さく細い子ばかり、といった現状に、とても心が痛みました。そんな中でも人を思いやり、前向きでパワフルで明るく振る舞っているフィリピンの方々に、こちらが元気をもらいました。思いやりの面で最も印象的だったのは、路上の子どもたちが、昼食に出た減多に食べられないチキンや家族を持って帰っていたことです。まだ幼いのに、自分より家族のことを考えていて驚きました。しかし、その思いやりや笑顔の裏には想像しがたい悲しみや辛さがあると思うと、彼らが心から笑える日が来てほしいという願いが強くなりました。

帰国後、自分にできることを行動にしようと思い、マンスリーパートナーになりました。そして、スタディツアーに参加した友人とグループを作り、フィリピンのお母さんたちが作っているフェアトレード商品の委託販売をしたり、日本の子どもたちとフェアトレードチョコレートを使ってお菓子作りをしながら、フィリピンのことを話したりしています。話を聞いた日本の子どもが、かつて私がそうだったように、フィリピンに少しでも興味を持ってくれたらと思っています。



【編集者から一言】 マンスリーパートナーの方には、スタディツアー参加費の割引があります。ツアーへのご参加と併せてご検討ください!